

ばんけい

教育ほっとにゅーず  
かわら版こみち  
教育の小径No.124  
2019 February  
2月号(一財)総合初等教育研究所参与  
前 国士舘大学教授

北 俊夫先生



## 今月のことば

はくひょう ぶ  
薄氷を踏む非常に危険な状況に  
臨むことのたとえを  
言ったものです。「薄  
氷」とは薄く張った氷  
のことです。「履む」と  
も書きます。

## 子どもの相互指名を考える

- 子どもによる相互指名には、子どもたちの主体性を尊重するという側面はありますが、話し合いが深まらないという致命的な問題があります。
- 子どもの学びは、教師が指導目標の実現を目指して意図的に指名することによって深まっていきます。授業の醍醐味は教師の意図的指名にあります。

## 子どもによる相互指名の課題

ある教科の授業を参観したときのことです。子ども同士が指名して発言している場面に会いました。授業者は子どもたちの発言を聞きながら、黒板に向かって一人一人の発言のポイントを板書することに徹していました。子どもたちが次々に発言していきますから、子どもたちが主体になって授業をつくっているように見えました。

しかし、次のような状況が生まれていることに疑問をもちました。

まず、発言する子どもに偏りが見られることです。知識が豊富な子どもや発言力のある活発な子どもが多く発言していました。よい考えをもっていても控えめな態度でいたり、挙手していませんと、指名されず、発言の機会が与えられません。同じ子どもがたびたび発言を繰り返していることも気になりました。

次に、感じたことは、発言の数は多いのですが、発言が分散的になっていて発言間の関連性が乏しく、話し合いが深まっていかないことです。発言の内容がはい回っているようにも見えました。それは指名する子どもに何の意図もなく、目の合った友だちを指名しているからです。こうした現象が生じ

るのはやむを得ないことです。子どもたちは教師の考えている指導のねらいや展開を知らないからです。

さらに、気になったことは、授業者が子どもの発言をただ聞いているだけで、何のリアクションも取っていないことです。子どもの主体性を尊重したいという趣旨から、あえて関わることを拒んでいるようにも見えました。その瞬間、授業における教師の役割は何だろうか。なぜ教師はその場に存在しているのだろうかという疑問が生まれました。子どもたちに発言を委ねているのであれば、教師はいなくてもいいのではないかとさえ思いました。

## 意図的指名で学びの深まりを

教師には、設定した目標（ねらい）を子ども一人一人に実現させるという重要な役割があります。そのために、教師が意図的、計画的に指導することが求められます。これは学校教育の基本原則です。

教師の役割は、授業において、多様な子どもたちを対象にさまざまな考えや考え方を生かしながら、指導のねらいを実現させていくことです。

この考え方は子どもを指名することについても同じです。「意図的指名」が重視されています。また、「指名計

画」という用語もあります。たかが指名ですが、されど指名です。

教師が子どもを指名して、発言の内容を生かしながら、子どもたちの学びを深めていくためには、教師が指導のねらいをしっかりとち、一人一人の子どもを深く理解していることが求められます。一人一人の子どもの考えの内容や考え方の傾向性を洞察することにより、教師は意図的に指名することができます。

このことは、教師による指名と子どもを理解していることが一体であることを意味しています。子どもは一人一人の考えや考え方、理解の仕方に違いがあります。それらを捉えることが子ども理解です。授業のなかで出番をつくり、一人一人の考えを生かしながら学びの質を高め、学びを深めていくことに教師の役割があります。

「ここでM子さんを指名し、M子さんの考えを生かそう」「この場でS男君の考えを発表させて、子どもたちの意識を揺さぶろう」などと考え、一人一人の考えを生かしながら授業を進めていくことは、教師としてわくわくどきどきする場面です。教師の思惑が外れることもあります。指名にこそ授業の醍醐味があると言えます。こうした充実感、子どもによる相互指名では味わうことができません。

今月の  
記念日猫の日  
(2月22日)1987年(昭和62年)に制定されました。  
猫が「にゃーん、にゃーん、にゃーん」と  
鳴く声と「2・2・2」の語呂合わせでこの  
日が決められました。

## 研究発表会当日に学級閉鎖

研究発表会の当日に、インフルエンザで学級閉鎖になってしまいました。当日、授業ができないのですが、担任としてどのように対応したらよいのでしょうか。

研究発表会当日に学級閉鎖になることは、教師だけでなく子どもたちにとってもとても残念なことです。起こらないことに越したことはありません。しかし、こうした事態に遭遇することはあり得ることで

学級閉鎖は通常前日に決定されますから、ある程度の準備と心がまえをすることができます。

研究発表会の当日は、人手が足りなくなります。学級を離れることができることを生かして、例えば、同学年の学級で担任とチームティーチングをする、各学級を回りながら記録用の写真を撮る、情報機器を点検し、発表の準備をする、参加者を会場に誘導するなど研究発表会の進行をサポートすることが考えられます。何をどうするかは副校長・教頭や研究主任などと相談し、連携して決定します。

当該の学級の子どもたちには、後日研究発表会の模様について話します。保護者にも伝えます。もし可能であれば、当日予定していた授業を後日校内で公開し、先生方から指導を受けることもよいでしょう。

学級閉鎖になったことを大変なことになったと受けとめるのではなく、組織の一員としての自覚をもって、その状況を積極的に活用します。柔軟に対応することが大切ではないかと思

# 教育の動向

## 休日の「総合的な学習の時間」

文部科学省は、土・日曜日や長期休業日などに実施した学校外（地域）での活動を年間の授業時数の4分の1程度まで「総合的な学習の時間」にカウントできるとの方針を示しました。小学校は各学年の年間時数が70時間ですから、年間に18時間程度になります。この時間は課題設定や情報収集に関わる活動に限っています。

こうした実施には、学校外での子どもの活動を授業として扱うことによって、教員の負担軽減につなげる。地域の教育資源を活用した教育活動を授業時数を増やさずに行われるようにする

などの狙いがあるようです。

土・日曜日などは学校の編成する教育課程外の時間帯であり、ここでの活動には、これまで教師が基本的に関わってきませんでした。そのため、次のような問題点が指摘されています。

- ・教師は校外での子どもの独自の活動にどのように関わり、評価するのか。子どもの活動を観察しないで、次の指導計画を考えられるのか。
  - ・子どもが夏期休業日に活動に参加するとき、地域に丸投げしないためには教師も参加するようになる。教師の負担が増えることにならないか。
  - ・子どもが万一事故などに遭遇したとき、責任の所在はどうなるのか。
- 各学校では、文科省からの通知の内容を十分検討する必要があります。



## 「思考力・判断力・表現力」の

## 指導と評価

その4

### 課題③ 教材がない

教材とは、一定の知識や技能を身につけるために、子どもたちが直接関わる材料（学習材ともいいます）のことです。食事にたとえると栄養やカロリーが学習内容に当たります。それを摂取するための献立が教材です。わが国では学習内容との関連で教材が語られ、教材研究が進められてきました。学習内容は「内容知」とも言われています。「内容知」に対して「方法知」という用語があります。これは学び方に関する知識や技能のことです。

思考力、判断力、表現力は、思考したり判断したり、さらに表現したりする活動や行為をとおして育てられていくものです。単に言葉で説明して身につくものではありません。

「内容知」を習得させる主要な教材

は「教科書」です。ところが、学び方を身につける「方法知」に関する教材はありません。「子どもの思考力、判断力、表現力を育てる本」といった教材は用意されていません。こうした教材を作成するためには、思考力とはどのような能力なのか。思考するとはどのような活動や行為なのかを明らかにする必要があります。そのうえでそうした活動を促す教材を開発します。

思考力、判断力、表現力を育てる教材が開発されていないところに、子どもたちにこれらの能力が十分に育っていない要因の一つがあるのではないかと考えます。シンキングスキルやコミュニケーションの重要性が指摘されています。こうした技能や能力を習得するためにテキストを使ったトレーニングが話題になっています。機会を見て学習訓練を行うことも必要です。

## INFORMATION



改訂版

規格/A4版 4色 128ページ  
定価/本体1,200円+税  
編著/文部科学省  
国立教育政策研究所教育課程研究センター  
発行/株式会社文溪堂

## 特別活動指導資料

### みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる 特別活動

- 学級経営に役立ちます
- 学力向上につながります
- キャリア教育の要です
- 生徒指導上の問題を未然防止します
- 道徳的实践に結び付きます

小学校学習指導要領準拠  
学級活動(1)、(2)、(3)※新設、児童会活動、クラブ活動、学校行事の各内容について、学習過程や指導のポイント等を、事例とともに紹介

## 編集後記

「子どもの主体性を育むにはどうすれば良いのか」は保護者にとっても子育てにおける重要なテーマだと思います。声掛けを工夫し、子どもが目標に目を向け、自分なりの解決ができるように促していきたいものです。(K記)

企画・編集：ぶんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2019年2月1日